

別紙1 テーマ1の提案に関する施策推進状況

テーマ1：奈良の魅力の発信と観光客の誘致 ～奈良の歴史文化を発信し、奈良ファンをつくるために～

提案項目	提案要旨	回答課	施策推進状況
1. 時代の風物史などを含めた歴史館なるものを展示するスペースを作ろう	伊勢街道は、大阪・奈良・三重との3府県合同のプロモーションや奈良単独でも北部と南部をつなぐ観光ルートにも成りうる可能性も秘めており、現代の伊勢街道を復活させることが地域の魅力創出につながるのではないかと。 郷土史研究家とか大学での講座など、街道にまつわる研究をしている人たちの知識を一般に広める努力をサポートする仕掛けとして、「公開講座を積極的に開く」「奈良をテーマとした芸術を公募し分野別に表彰する」「古地図の活用」などをおこなってはどうか。	ならの魅力創造課 文化課	現在県では、県内を歩いて楽しむしくみ作りに取り組む「歩く奈良」推進事業を展開中。その中で「歩く・なら」推奨ルートとして県内の伊勢本街道のうち、榛原駅～御杖村敷津間のウォークルートマップを地元市町村と協力して作成、ホームページで一般公開しています。今後、このマップをさらに延長して作成すると共に、隣接府県部分の情報も発信し、「歩く・なら」で地域の魅力をより強く発信できるようにしたいと考えています。 ・関係する文化施設等において、今後検討していきたいと考えています。 ・県立図書情報館では、「ふるさとコーナー」を設け、奈良県にゆかりの資料を収集、展示し、奈良に関する情報の発信に努めています。 ・万葉文化館では、「万葉集」を中心とした古代文化に関する総合文化拠点として、「万葉日本画大賞展」「平成万葉・千人一首」の募集、展示等を実施しています。
2. 見に行き・参加して楽しかったお祭りをもっと創造したり、発信したりしよう。	県庁屋上での「夕暮れコンサート」。景色抜群のところ、正に天空で聴く音楽の味わいも良いと思う。 榛原の体育館で開催されている農業品評会は、地元で採取したきのこで鹿肉の入ったきのこ汁を販売していた。こうした県民が参加してみたいと思う行事を県内でもっと開催すべきだ。	文化課 マーケティング課	「なら燈花会」、「県庁ほのあかり」を盛り上げ、県民の活動の場を提供し文化の振興を図るため、燈花会期間中、県庁玄関前において「県庁星空コンサート」を実施しています。 県では奈良の食と農の魅力を発信するため、従来から実施していた「なら食と農のフェスティバル」のほか、平成21年度から「奈良フードフェスティバル2009」を開催しています。「奈良フードフェスティバル2009」では、歴史ある建物と素晴らしい景観で日本を代表する観光地として知られる奈良公園を会場に、期間限定で有名シェフたちが生み出す美食メニューを提供することにより、県内の豊富な食材をアピールしています。 また、県庁周辺での賑わい創出に向けて20年度から実施している「県庁にぎわい味わい回廊」における「味わい市」の開催などにより、県民や観光客に向けた食材の紹介、販売も行っています。今後も、多様なイベント開催等により、食と農の魅力発信を図っていきます。
3. 奈良がでてくる映画・ドラマ・アニメ等々をもっと活用しよう	奈良県内でロケハンされた映画・ドラマ・奈良県が舞台のアニメなどについて、どんなモノがあるか検証が必要だ。 関西在住作家5人が競作したうちの一篇の「ひかりもの」というお題で、螺鈿（奈良漆器）とか、万華鏡（水門町の喫茶しろあむ）、大仏堂、燈花会など、様々な「ひかりもの」を織り交ぜれば新たなストーリーが展開するのではないかと。	文化課	・奈良県を取り上げた映像情報については、奈良県HPの「奈良県文化情報」の中で、「奈良にゆかりの映画情報」として情報を掲載しています。 ・映画やドラマのロケーション活動を支援するため、文化課内に「フィルムコミッション・奈良県サポートセンター」を設置し、市町村観光関連団体等の関係機関と連携しながら制作会社の要望、要請等に対応しています。

提案項目	提 案 要 旨	回答課	施 策 推 進 状 況
4. 産業施設を集約して、自然と歴史の奈良の魅力を復活しよう。	○道州制の議論をもっと活発化する ・道州制への移行が議論されているが、奈良は国或いは広域行政区の直轄観光行政重点地区としての位置づけ、或いは道州制の中での観光特区としての位置づけを狙っていくべきではないか。	政策調整課	道州制については、政府の「道州制ビジョン懇談会」や自民党の「道州制推進本部」などにおいて、種々検討されてきたが、本県は、以下の理由から、現時点では「道州制」の効用について、多くの疑念が存在しており、制度の目的、設計、効果について具体的な内容の詰めが必要と考えています。 ① 道州の地方自治組織としての位置づけをどうするのかという問題 わが国は基礎的自治体の市町村、中間自治体の都道府県と国の3層制ですが、中間自治体を再構成するにあたっては、地方自治組織間の役割分担を明確にすることが重要です。 ② 道州の機能、役割をどうするのかという問題 地方組織間の事務の重複、責任の不明確さが発生するので、国と地方組織、地方組織間の役割分担の明確さが重要です。 ③ 道州制は、地域間格差を解消するのではなく、固定するのではないかという疑念 地域間競争が発生するグローバル化時代において、地域間格差を是正する役割を期待されているのは中央政府です。 ④道州制で地方の権能が強化された場合、必要な財源はついてくるのかという疑念 道・州という「組織」よりも、連携という「活動」を重視して、奈良県あるいは関西をよくするための中身を詰めることが重要であり、道州制に関する懸念を明確にしたうえで、国民の理解、合意を得ることが必要と考えています。こうした考えを踏まえ、総選挙を前にした今年7月30日には、各政党に対して道州制への慎重な対応を求める要請文を提出したところです。
		観光振興課	観光振興の観点からは、既存の行政区域にとらわれず、自然・歴史・文化的に密接な関係のある地域について、広域的に観光振興に取り組むことが有効と考えます。 また、観光は多くの事業者が関連する裾野の広い産業であり、経済活性化に大きな効果があることから、民間事業者とも連携して観光振興に取り組む必要があります。 十津川村と和歌山県田辺市のエリアで二泊三日以上の滞在型観光を促進する地域として平成21年度に国土交通大臣から観光圏の認定を受け、地元市町村や観光関係の団体・事業者などが中心となって、さまざまな観光事業に取り組んでいるところです。

提案項目	提 案 要 旨	回答課	施 策 推 進 状 況
	○奈良の価値意識共有のための啓蒙活動強化 ・奈良女子大や奈良教育大など国立大があるにもかかわらず、他大学とのカリキュラム上の差別化が不十分だと思う。奈良としてソフト力(古都都市計画論、仏教建築、奈良仏教論など)を高めていく上で、全国或いは海外から留学生が来る可能性があるので、奈良のソフト力を高めるような学府として機能してもらいたい。 ・奈良の学府で育成し、それが日本全体はもちろん奈良に貢献するような学問として、景観法運用の実践者プロを育成するための「まちづくり建築学科」を開設し、この中でどう町屋を維持し、まちづくりの中でどうコミュニティを維持していくべきかについて、専門家を育成し、建築のプロというベースで人材を育成していくべきだ。 ・持続的サイクルを林業、街並み、農業の総合的観点から確立し、CO2 排出をコントロールできる地域づくりを目指す「環境学科」を創設してはどうか。 ・ホテルマンの育成だけでなく、奈良がハードに頼らずソフトで勝負できるような観光・宿泊事業者で牽引されるような人材育成の場として、歴史・地理・食事他文化全般での有識を持った上でサービス提供できる独自の「観光学科」を創設してはどうか。 ・奈良県立大学では、地域創造学部の中に観光学科があり、そこでは歴史・地理・社会・文化等の知識を育み、観光まちづくりや観光産業に従事する人材を育てているが、もっと誇りを持って、しっかりとアピールし、卒業生が県内で就職せず県外に流失している現状をから、県内で就職できるよう、産業界、地域が一体となって県立大学を産業界や地域や行政がしっかりと支えていく仕組み作りが必要だ。	地域づくり支援課	奈良県立大学に関して 1. 県立大学の沿革 県立大学は、昭和28年、勤労学生に高等教育を提供することを目的に、夜間2年制の県立短期大学として開学し、その後、平成2年に4年制の奈良県立商科大学となり、平成13年には全国唯一の「地域創造学部」を設置しました。また、平成19年からは昼間制に移行しております。 2. 地域との連携 県立大学は、「地域から学び、地域に貢献する」ことを理念としています。地域総合学科・観光学科の共通科目として、例えば、グループ別フィールドワークである「地域現場実習」や観光団体、民間企業、NPOでの「体験実習」を実施しています。 また、県内市町村や経済団体等との間で合計8件の包括連携協定を締結しており、地域産業の振興、教育・文化の発展、地域づくりなどの多様な分野での取り組みを進めています。 なお、県内での就職に関しては、県内企業、団体等にインターンシップ実習生の受入れをお願いすることで、県内企業と学生の双方に、お互い親しみをもっていただくよう努めています。 3. 今後の大学のあり方 現在、県立大学では、今後の大学のあり方に関する検討を重ねているところです。大学のめざすべき方向性を検討する中で、新たな学科の設置も検討すべき課題の一つであると認識しており、ご提案の内容も参考にさせていただきたいと考えます。

提案項目	提 案 要 旨	回答課	施 策 推 進 状 況
	○本来の奈良の魅力度を高める 新大宮周辺の雑居ビルや道路沿いの中高層ビル・広告もかなり古都の雰囲気とかけ離れている。これは行政が規制をして来なかった結果だ。景観法の積極活用と都市計画の抜本的な見直しが必要だ。	風致景観課	奈良市における屋外広告物規制（奈良市屋外広告物条例）や景観法活用（景観計画の策定等）は、中核市・景観行政団体である奈良市の所管となります。
	○木の香りが漂う町 ・奈良公園への車でのアクセスについては、国立博物館前の登大路から大仏前、春日大社前などから完全に車を閉め出すなど一定の制限が必要だ。	道路交通・環境課	昨年11月に実施した『奈良公園の魅力向上』、『奈良中心市街地の交通対策』を目的とした社会実験を今秋も引き続き実施することとしています。今年度は、昨年好評を得た「仮歩道の設置」、「周遊バスの運行」、「パークアンドライド駐車場の利用促進（シャトルバス）」について充実を図るとともに、「一方通行の向きの検討」、「北側からの交通への対策」などを追加して実施する予定で恒久的な奈良公園での観光客の歩行の安全性や回遊性を高める施策や交通渋滞対策の有効性の検証を行うこととしています。
5. 奈良県に来て頂いた御客様に自慢できる場所を持とう	○奈良県内の自慢出来る所はどこですか ・奈良の場合、他に類を見ない特徴は、どこにでもある畑や古びた商店街のある所に国の宝が散らばっている所にある。一個の重要文化財をととても大事に崇めている所ばかりなので、拝観料を安くし、京都観光より安く観光できるということをPRしてはどうか。	ならの魅力創造課	ご指摘の通り、奈良の魅力のひとつとして、たくさんの国宝や重要文化財があることが上げられますが、それらの魅力をより強く、よりたくさんの方にアピールするため、「なぜそれがつくられたか」「誰がどのような思いをもってそれに取り組んだか」といった、ひとつひとつの観光素材が持つ物語を歩くルートごとにご紹介する「歩く奈良」推進事業を展開しています。 この「歩く・なら」情報をより強く県内外に広報し、お客様増加につなげていきたいと考えています。
	○早朝の駅前周辺の問題点 ・外国語での情報発信といえば Nara explorer があるが、こちらに「早朝から営業している喫茶店の情報提供はありますか？」と問い掛けてみてはどうだろうか。JR・近鉄奈良駅付近には、朝7時から朝食の準備をしている店もあり、こうした情報も有機的につなぐことも必要だ。	国際観光課	外国人観光客への情報発信・提供については、外国語版のマップ及びパンフレット類を作成し、観光案内所等で配布しているほか、外国語版ホームページを運営しています。特に外国語版ホームページについては、昨年度事業で全面的にリニューアルし、情報を充実させるとともに、新着情報や国際交流員によるブログの掲載によりタイムリーで、かつ、活きた情報を掲載しています。

提案項目	提 案 要 旨	回答課	施 策 推 進 状 況
6. 「大阪」「京都」「神戸」「奈良」の「四都」を形成できるように演出を広げよう	奈良は「三都物語」に入っていないし、新幹線沿線から遠い。「大阪」「京都」「神戸」「奈良」の「四都」を形成できるような演出を広げるべきだ。	観光振興課	「三都」の一つである神戸市とは、今年3月に開業した「阪神なんば線」により奈良と直通列車で結ばれ、阪神三宮駅でのキャンペーンなどにより積極的に奈良の情報発信を行っています。また、11月からは奈良県専用の電子看板により奈良の旬の情報発信を行うこととしている。さらに、わが国を代表する数多くの歴史文化資源が点在する「神戸」、「大阪」、「京都」、「奈良」、「伊勢」を結ぶルートを歴史街道としてPRする「歴史街道推進協議会」に奈良県も会員として参加しています。これらの取り組みにより「神戸」「大阪」「京都」から「奈良」への観光客の誘致を図っていきます。
		ならの魅力創造課	現在県では、県内を歩いて楽しむしくみ作りに取り組む「歩く奈良」推進事業を展開中。これをPRするホームページ「歩く・なら」を公開していますが、これに、隣接県に限らず、歴史的にゆかりのある他府県の場所と本県の観光スポットを連携して情報提供するしくみを準備中です。他府県の情報と一緒に情報提供することで、奈良県の歴史的な価値がより強くわかり、お客様の奈良に行きたくなるような気持ちを盛り上げにつなげていきたいと考えています。
7. 発信力の強化しよう	・Web時代のコンシェルジュのような役目をしてくれる仕組みが来ると、奈良の文化力を発信して、お客を招く力になるのではないかな。	観光振興課	日本観光協会の「全国旅そうだん」や楽天市場の「まち楽奈良」、自動車旅行推進機構の「<生>たびWeb」などと連携し情報発信を行っているところです。コンシェルジュのような役目をしてくれるポータルサイトを有志団体が運営し十分なアクセス数を獲得できるようになるまでは、まだ時間がかかると思われます。今後も、機会があれば情報サイトとの連携を図っていきます。
8. 奈良の景観と建設とのパドックスを解消し、ベストな建造物で奈良らしさを演出しよう	・奈良県の客室数は全国最下位、宿泊施設数は全国最下位から2番目という状況で、ホテル誘致も結構だが、当然建造物が増えると、眺望景観は無惨な状態になるだけで、新大宮周辺のような容貌がそのまま残ってしまう。無理矢理誘致しなくても、どうしたら奈良に宿泊施設が自然に建ってくる環境になるのか。今、県営プール跡地は、高度規制25m・容積率60%・建坪率40%、奈良市の誘致しようとしたマリOTTコートヤードは、高度規制40m・容積率600%・建坪率80%という規制の是非も含めて、どう考えるか。	企業立地推進課	奈良県は、多くの観光資源を有するにもかかわらず、平成20年3月末時点のホテル・旅館の施設数、客室数は、最下位から2番目の少なさで春秋の観光トップシーズンの宿泊ニーズに応えられていません。そのため、本県の観光振興・経済活性化を図る目的で宿泊施設の誘致及び既存宿泊施設の充実に取り組んでいます。 県営プール跡地に関しては、25mの高さ制限があるものの奈良市内中心部では極めて稀な大規模な公有地であり、奈良らしい落ち着いた雰囲気の開発が可能であると考えています。

提案項目	提 案 要 旨	回答課	施 策 推 進 状 況
	・奈良の景観を悪化させるような高層近代ホテルの建設は問題がある。観光客増加のためという名目で、奈良の景観を悪化させるような高層近代ホテルの建設には反対だ。ホテル日航奈良は既に建ってしまって、薬師寺、西ノ京、あるいは平城宮跡から奈良東方の景観が著しく悪化している。むしろ、奈良町周辺の町屋や旧市街でのホームスティなどで宿泊部屋数を伸ばすべきだ。そのためには既存の宿泊事業者有志で、組合形式で新しい運営組織を立ち上げ、奈良での宿泊サービスのスタンダードを決めてサービスできる人材を育成するのが望ましい。 ホテルを誘致して建てるのではなく、既存の宿泊施設を再開発して魅力ある地域にする方が良いと考える。	企業立地推進課	奈良市における高度地区等の都市計画は、市の定めるところとなりますが、奈良は、第一級の文化資源とこれらを取り巻く歴史的風土や豊かな自然に囲まれていることで、多くの宿泊需要や潜在的なコンベンション需要があります。しかし、受入施設が不十分なためそれらを取り逃がしているのが現状です。そのため、本県の観光振興・経済活性化を図る観点からコンベンション誘致等のため大型良質ホテルを整備する必要があると考えます。 また、小規模な宿泊施設の整備についてもその重要性は認識しており、多様な宿泊施設の立地促進・魅力向上を目的とした小規模宿泊施設の創業及び既存宿泊施設の増築・改築及び設備設置のための融資制度、経営全般等のアドバイスを行う専門家派遣制度等によりサポートを行っています。 さらに、「おもてなし」の重要性に鑑み、おもてなしの底上げとなるような地域のモデル的な事業に取り組む県内宿泊施設事業者への支援を行っています。
	・平城宮跡を横断する近鉄奈良線の架線と支柱デザインを考える 何が景観を崩しているかというと、平城宮跡を横切る電車の架線とその支柱だ。架線を外せば景観はずっと良くなる。近鉄線の架線をセンターポール式にして、太い電線類を地面に下ろせば、比較的低コストで何とか許容できる景観になるのではないかな。	都市計画室	大和西大寺駅から奈良駅までの間の近鉄奈良線については、西大寺駅や新大宮駅周辺の渋滞対策と併せて、平城宮跡の国営公園化による景観の向上、公園利用者の利便性の向上という平城宮跡外への鉄道立体化による移設について検討しています。 ・仮に鉄道を地下化する場合、地下水変動による木簡への影響や事業規模が非常に大きくなることによる財源が大きな課題であり、鉄道を高架化する場合には景観への影響が課題となっています。なお、鉄道高架化の場合でも、事業費は、地下化ほどではないものの、相当高額になると想定しています。 ・以上のように大きな課題があるため、様々な観点から幅広く検討しているところです。
9. 外国人労働者の支援しよう	・ブラジルや東南アジアから多くの外国労働者が、数万人は住んでいる。言葉の問題が大きいようだが、奈良のよさを知ってもらうために雇い主と連携してこういう人を支援するNPO活動があっても良いのではないかな。	協働推進課	県内には、外国から来られた方の日本語支援をしておられるボランティア・NPO団体がいくつもあります。県もそのような団体と協働しながら、外国からの移住者が日本での生活を不自由なく行うことが出来るような支援も行っています。

提案項目	提 案 要 旨	回答課	施 策 推 進 状 況
10.「ホームステイ」を充実させよう	・「ホームステイ」というのは通常、外国人を受け入れるものだが、他県の方を受け入れるという発想はどうだろうか。部屋数が多く、空いている家であれば2、3組は宿泊可能だ。ホストファミリーが170箇所、1ホテル分は生み出せるはずだ。高齢化も進んでおり、空き部屋のある家が相当あると思われる。外国観光客は、安く気楽に泊まれるところを探している。外国人だけではなく、日本人も受け入れ、奈良を訪れる人に接してもらい、家族ぐるみの生活を体験してもらって奈良ファンを生み、リピーターを作っていけるのではないかな。		<県における施策推進状況該当なし>
11. 魅力の有る景観保全は、全体の眺望の重要性だと云うのを、行政も県民も自覚しよう	・道路沿いの電線の見苦しいことこの上無い。残していきたいと感じられる奈良の風景とは、個々の古代建築の風景もさることながら全体の眺望だということを自覚し、電線の地中化の推進が必要だ。	道路交通・環境課	電線類の地中化は、安全で快適な通行空間の確保、都市景観の形成等に大きく貢献するものであり、特に本県では世界に誇る貴重な歴史・文化遺産が多く存在することから、歴史的・伝統的景観の保全と向上を図るため、これらの地域での電線類地中化を促進する必要があると考えています。 そのため、昭和61年度から奈良公園、明日香、斑鳩周辺、西ノ京周辺などの歴史的景観地区や奈良への玄関口である国道369号の大宮通りの景観向上を目的として電線類の地中化に取り組んできたところ。平成20年度末までに県管理道路で約21kmの電線地中化を行い、現在は世界遺産平城宮跡前の県道奈良生駒線や近鉄八木駅南側の県道大和八木停車場線で事業を進めてきました。 今後とも、歴史的景観保存地区及び主要な観光拠点へのゲートウェイとなる箇所の景観形成や市街地における道路整備と一体となった無電柱化の推進等を電線事業者や地元等の協力を得ながら事業を促進する予定です。
12. 寺院の伽藍こそが奈良の都市としての独自性で有る事も自覚しよう	・奈良の寺院は巨大であり、迫力があり、オリジナリティがある。興福寺の五重塔は奈良時代創建時のスタイルに則り、聳え立ち、奈良のランドマークになっている。寺院の伽藍こそが奈良の都市としての独自性であり、アイデンティティだと思う。この伽藍と自然の風景が融合してこそ奈良であり、寺社の姿はその創建時になるべく回帰することが必要だ。	文化財保存課	緑豊かな自然とそこに悠久の時を超えて存在する寺社建造物は、本県を訪れる多くの人々を魅了し、奈良のアイデンティティとなっています。 寺院伽藍の整備は、各寺院が判断することとなります。 文化財指定された建造物については、修復保存事業を実施しています。 また、境内地が史跡地指定されている場合には、保存管理・環境整備事業へ補助するなど、各所有者、市町村と協議しながら施策を推進しています。 ○21年度における関係事業の予算額 ・重要文化財修理受託事業費 935,562千円 ・建造物保存修理に対する補助 82,247千円 ・史跡地環境整備に対する補助 93,604千円（古墳等の整備も含む）

提案項目	提 案 要 旨	回答課	施 策 推 進 状 況
13.「奈良は大いなる田舎です」とは何を意味するか	「奈良のどんなところが良いのですか」と質問したところ、「奈良の人は親切です」という答えが返ってきた。 「奈良ってどんな所ですか」と質問したところ、「奈良は大いなる田舎です」と答えてくれた人がいた。「素朴な奥床しさが残っている」のが奈良だといわれる。大きな都市の中に原生林があるのは奈良だけだ。「奈良は大いなる田舎」とは、なかなか意味のある奈良を表わす端的な表現かもしれない。この”大いなる田舎”、”素朴な奥床しさ”の表現の中にある特徴を分り易くして流行語になるくらい、使用してみてもはどうだろうか。		<県における施策推進状況該当なし>
14. 奈良は宿泊施設が全国一少ない事を自覚しているか	・奈良は宿泊施設が全国一少ないのは事実だ。奈良には沢山のお寺や神社があるが、泊めていただける所が少ない。宿坊として観光客を泊めて頂けたら、宿泊施設の増加にならないだろうか。お寺や神社の行事等を真近に見て観光客は勉強になるし、心を養うこともできる。またお寺や神社のPRにもなり、多少の収入になると思う。 - その周辺の民家で、ビジターを泊めるという事も出来そう。一人で始めるのは大変だから、これを支え提案する民間機関の芽生えること期待したい。	企業立地推進課	平成20年3月末時点の奈良県内のホテル・旅館の施設数、客室数は、最下位から2番目の少なさとなっており、本県の観光振興・経済活性化の面から常にその状況を意識しています。 また、寺社仏閣周辺での宿泊施設の整備については、奈良市を除き市街化調整区域内における宿泊施設立地のための規制緩和を行い周辺環境に適した宿泊施設立地のための環境整備を図っています。 さらに、小規模宿泊施設創業のための融資制度や経営全般等のアドバイスを行う専門家派遣制度等の資金、運営面でのサポートを行っています。
		ならの魅力創造課	現在県内にもいくつか、一般の方も宿泊できる宿坊を持つお寺があります。特に、信貴山朝護孫子寺は、個人のお客様からの予約も受け付けておられます。ただ、お寺が宿坊を一般開放されるか否かはお客様側のお考えによりますので、それぞれのお寺様と相談させていただきながら、県がPRをお手伝いさせていただける部分を担わせていただきたいと思います。

提案項目	提 案 要 旨	回答課	施 策 推 進 状 況
15. 現状イベントのブラッシュアップにより、奈良の魅力をアップさせよう	・2010年には平城宮跡に大極殿が復元される。朱雀門が復元されて久しいが、その建物をどう利用したのかは想像がつかない。 平城宮跡は、遺跡研究者やボランティアガイドの皆さんが頑張っておられて、木簡の読み解きは埋もれた歴史の楽譜を読み解くかのようで、楽譜を読める人に奏でてほしい。平城京で誰が、何のために、どのようなことを行っていたのか、今日の社会との関連はどのようなことなのか、当時の食事について、一般の人々の食べ物や貴族の食べ物はどうだったのか、遊びや衣装など、平城京で営まれた人々の活動を復元し、観光客に提供する場を設けて奈良の魅力をアップしてはどうか。	(社)平城遷都1300年記念事業協会	平城宮跡をゲートウェイとした奈良県観光の魅力づくりとして、平城遷都1300年祭では、平成22年4月24日～11月7日の間、平城宮跡会場において、次のような事業展開を図る予定です。 ・第一次大極殿正殿については、文化庁により一般に公開され、解説展示もなされる予定。 ・平城宮跡に関わるボランティアの方々を中心としたツアーガイドボランティアを組織し、「平城宮跡探訪ツアー」を実施する。具体的には、平城宮跡の復原施設・遺構やそれらの歴史的背景、平城京の歴史をボランティアガイドによる解説を通して楽しく学べる場を提供します。 ・平城京なりきり体験館を仮設整備し、平城宮仕事体験、天平衣装体験、衣食住の体験工房、疑似発掘体験などのプログラムを通して、平城京時代の暮らしや歴史を体験的に学習する機会を提供します。 ・古代行事の再現として、衛士隊の再現、相撲節会、騎射、射礼、曲水の宴、蹴鞠など奈良時代に行われていた古代の行事や儀式を今に楽しめるように再現し、往事の様子を体感出来る場を提供します。
16. 奈良近鉄ビル（奈良駅）改装案を再考せよ	・近鉄奈良駅の狭い観光案内所は、とても奈良の観光のために機能發揮しているとは思えない。近鉄奈良駅で観光客を迎えるというには機能的に不十分だ。近鉄と連携して奈良らしい外観で、より機能をアップした施設に作り変えるよう努力すべきだ。	観光振興課	近鉄奈良駅の観光案内所を拡充整備し、平成21年3月にリニューアルオープンしたところです。パンフレットコーナーを設け、県内各地の観光地を案内しているほか、ボランティアガイド1名を新たに加えるなど、機能強化も行っています。今後も、近鉄と連携し、観光客を歓迎する雰囲気醸成に努めていきます。
17. 平城京の各条坊大路の位置をわかりやすく表示しよう	・奈良市民で自分の住んでいるところが平城京の何条何坊にあるのか認識している人は意外と少ないのではないかと。そこで、平城京の各条坊大路の位置をわかりやすく標識や案内板で表示してはどうか。		<県における施策推進状況該当なし>

提案項目	提 案 要 旨	回答課	施 策 推 進 状 況
18. IT 技術で観光事業を活性化しよう	・IT技術で観光客を動かしていくことをeー観光と命名し、たとえば観光客は近距離（10m）でのデータ通信ができる携帯電話やワンセグ放送受信機を持っていれば、近鉄奈良駅に到着すると奈良のイベントがすべて見ることができて、そのイベント会場に行ける交通機関、到達距離、時間が付加されれば、興味を引きイベントに観光客は動くのではないかと。また、観光地では情報をeー街路灯からも端末に情報が提供される。こうしたシステムを構築すべくインフラを整備し、平城遷都 1300 年記念事業で実証実験を行えば、将来の観光事業を活性化させるのではないだろうか。これらの観光情報を関西空港、東京駅のディスプレイに表示すれば奈良の観光客を増加させることができないだろうか。	道路交通・環境課	奈良を訪れる観光客が移動経路や観光案内等に関する情報を「いつでも、どこでも、だれでも」が入手できるユビキタスな環境の構築を目指し、自律移動支援プロジェクトとして平成18年度から実証実験に取り組んでいます。 平成20年度は、奈良公園周辺及び西の京地区において、実証実験の公募により選定された奈良市観光協会と国・県が役割を分担しながら、専用携帯端末（ユビキタスコミュニケーター）と携帯電話による情報提供の実証実験を行ったところ。専用携帯端末は奈良公園等に設置された電波マーカから提供される情報を受信し観光案内等を行うシステムであり、携帯端末では GPS による移動経路案内等とともにスポットワンセグ放送により観光施設やイベント情報等の提供も実施しました。 今年度は、従来のシステムの改善と運用面の課題を解決し、平城遷都1300年記念事業が開催される平成22年度での定常的なサービス提供を目指したシステム構成やコンテンツ開発等を行う予定です。
		観光振興課	現在、様々なシステムが様々な技術で情報を発信しており、送信側、受信側の両者が統一された全国規模のプラットフォームで動くシステムを組まなければ単発・短命のシステムになり、有効な情報発信が出来ないと思われます。他部局ではあるが、ETCを活用した自動車ユーザーへのサービス向上等に関する取り組みを推進するため、阪神高速道路との連携協定をしたところ。また、自律移動支援プロジェクト実証実験も、実施され本格稼働にむけ進行中とのことです。11月からは奈良県専用の電子看板により奈良の旬の情報発信を行うこととしている。また、「大和路アーカイブも」リニューアルに向け携帯電話端末との大幅な機能強化を図っていくところです。今後は、さまざまなシステムなどと相互連携を図っていき情報の一元化をできるシステムの構築に取り組んでいきます。

提案項目	提 案 要 旨	回答課	施 策 推 進 状 況
19. MBSラジオウォークに参加して。	・今年2月11日のMBSラジオウォークに参加したところ、約2万人の参加があった。2万人も集まる魅力は一体何なのだろうか。日本の古都としての潜在需要か。パブリシティ戦略は、テレビやラジオ、新聞、雑誌等のマス媒体を利用した広告だけではなく、イベント情報を発信してもらうことで消費者に訴えるプロモーション戦略のことで、奈良県はもう少しまっくパブリシティを利用したらどうだろうか。 奈良の観光情報をツーリストに売り込むのと同様、このようなイベントに積極的に仕掛けをして売り込むようにしてはどうか。	観光振興課	当該ラジオウォークについては、主催の放送局の番組や新聞により情報発信が行われることや著名な大学教授が出演し解説することから毎回多数の方に参加いただいています。このような機会を捉え、奈良の魅力を積極的に発信するとともに、県内各地に設定した歩くルートについてもPRを行っていきます。
20. 県営プール跡の活用はどうか	・県営プール跡のホテル誘致について、隣接する奈良警察署を移転して、跡地を一体的に開発する方針が報じられた。そこに商業施設等を誘致し、ホテルとの相乗効果を狙うようだ。詳細は不明だが、なかなか思い切った発想だと思う。平城宮跡にも近いし、地域の活性化になるのではと期待している。しかし、住民にとって市役所や警察署がも隣接していることは大変利便性が高い。その利便性をなくしてまでホテルを誘致するという点に理解に苦しむのだが。	企業立地推進課	奈良警察署は、築40年で、建替えも含めた検討時期にあったことに加え、県北部の庁舎系施設再配置計画により、奈良警察署を大森町に移転建替すれば、現奈良警察署の施設の問題が解決できるとともに、利用価値がより高い現奈良警察署用地の有効活用が可能と考えます。また、県営プール跡地及び奈良警察署用地は、近鉄西大寺駅から平城宮跡、近鉄奈良駅を経て奈良公園に至る奈良の新たな観光軸の中心に位置し、本県の観光振興・経済活性化に大きな効果をもたらすことが期待できます。そのため、有識者の意見を聞きながら、県営プール跡地及び奈良警察署用地についてホテルを核としたまちづくりの構想を策定しているところです。

提案項目	提 案 要 旨	回答課	施 策 推 進 状 況
21. 道路行政はきちんと分析して見直しているのかを検証しよう	J R奈良駅の高架工事に伴う阪奈道路油坂の交差点の渋滞は見通しの悪さと状況分析の浅さが現れているのではないか。	地域デザイン推進課	J R奈良駅付近連続立体交差事業では、鉄道の高架化にあわせて大宮通り線（大宮跨線橋付近）を6車線化するとともに、関連街路事業によりJ R線と交差する県道奈良生駒線（都市計画道路大森高畑線、三条菅原線）を4車線化することで、奈良市中心部に流入する交通を分散し、円滑な交通処理が可能となります。 油阪交差点付近の大宮跨線橋の撤去にあたっては、幹線道路である大宮通り線の工事中の交通処理をできるだけ円滑に行うため、原則4車線の通行を確保するように進めています。このため、関西線を高架に切り替える直前までは、北側跨線橋2車線と側道（踏切）2車線の形態で4車線を確保してきました。関西線の高架切り替え後、大宮跨線橋の撤去が完了するまでの期間は、大宮通り線の東行き車線が跨線橋を挟んでのセパレート構造となるため、油阪交差点の形状が大きくなること、またそれに伴い信号処理が東西方向、南北方向と歩行者横断の3現示となることから、混雑が生じていました。 大宮跨線橋の撤去完了後、平成21年4月24日に交差点部でセパレートになっていた東行き車線を南側に切り替え、交差点を小さくするとともに、信号を東西方向と南北方向の2現示に変更することで、交差点の交通処理容量を大きくし、混雑の緩和を図りました。